

FUJIEDA ROTARY CLUB

# 藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040  
URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org



会長：青島 彰 副会長：仲田 廣志 幹事：大塚 博巳 副幹事：池ノ谷 敏正

## 第1910回

- ソング 四つのテスト
- ソングリーダー 大長 昭子君



【2011-2012年度 RIテーマ】

こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために

カルヤン・パネルジー

【蓮】

写真提供：櫻井龍太君

### ■ 会長報告 青島 彰君

7月13日創立40周年実行委員会が開かれました。

記念事業の詳細な内容、スケジュール等協議されました。この後会員全体の協力をお願いする場面となると思いますので宜しくお願いします。

7月16日、財団セミナーが静岡グランシップにて開催されました。当クラブからは渡辺篤司会員が出席されました。後ほど報告をお願いします。

7月19日「冠講座」最終講座が開催されました。酒向謙次前幹事には企画の段階からご尽力いただきました。感謝申し上げます。また講師の会員もご苦労様でした。

暑い日々が続きますが、さらに熱くしてくれたのがドイツで開催された女子サッカーワールドカップ大会での『なでしこジャパン』の優勝のニュースではないかと思えます。点を取られては取り返す展開はTV観戦とはいえ大興奮の早朝イベントでした。

決勝トーナメントの3試合は早朝3時30分からのTV中継となり、眠い目をこすりながらの観戦は結構キツイものがありました。

各メディアは勝因について色々なコメントをしています。

最後まであきらめない精神力

ゆるぎない団結力

笑顔が出るムード：米国選手は集中していたが渋い顔をしていたが日本の選手達は笑っていた。

攻撃でも、守備でも、1対1で負けない「個」の強さがあった。

熱くなりすぎたアメリカ代表とは逆の冷静さがあった。特にPK戦ではクールなナデシコ達が印象であった。

観客の大半を味方につけた決してあきらめないプレー。

まさに日々の努力が実を結んだドラマであったと思います。

余談ですが『なでしこジャパン』の名称は2005年公募により決定したそうです。

女子サッカーがW杯に出発したのも知らないでベスト8あたりから興奮してTV観戦をしたのは私だけでしょうか。

### 幹事報告 大塚 博巳君

- 2620地区 会員増強推進についてのお願いが届きました。
- 2620地区 2013年度規程審議会についての案が届きました。
- 2620地区 ロータリーレート 2011年8月は1\$ = 80円です。
- 2620地区 第17回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭(2012年5月19日横浜みなとみらいホール)の応募要項が届きました。

### 出席報告 小西 啓一君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
37 / 44 84.09%	38 / 44 86.36%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 栗原君 酒井君 江崎晴君 鈴木舜君
- 鈴木廣君 仲田晃君 水野君

## (2)メイクアップ者

河井 宏文君(藤枝南)

### ビジター

藪崎 幸一君(藤枝南)

### スマイルBOX

小西 啓一君

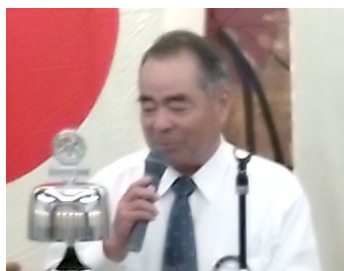
- 7月7日に二人目の孫が生まれました。女の子でした。村松 英昭君
- お誕生日のお祝いありがとうございます。大長 昭子君
- 先週は誕生日祝いありがとうございました。7月24日で59才になります。60才に向けて頑張っていきたいと思っています。(仕事に遊びに) 畑 昇君

スマイル累計金額 47,000円

### 委員会報告

ロータリー財団委員会

渡辺 篤司君



#### 『財団セミナー報告』

#### 未来の夢

2017年に創立100周年を迎えることを踏まえ、管理委員会は財団が奉仕の第二世紀に移行するための計画を立てています。

創立以来ロータリー財団はプログラムにほとんど変更を加えることがありませんでした。そこで管理委員会は面接やアンケート調査、フォーカスグループ、意見交換会を通じて多種多様な関係者の意見を取り入れ未来の夢計画を立案しました。

- ・プログラムと運営を簡素化する
- ・意思決定をさらに地区に移行する

昨年度から世界の100地区(日本では4地区)が3年間試験地区として「未来の夢計画」に従ったプログラムで財団活動を開始しました。

残る地区は2013~14年度から3年間の試行期間での問題点を改善して全ての地区が移行します。

## 会員卓話

「地域社会貢献の活動について」

畑 昇君



焼津信用金庫では、営業統括部と顧客

相談部の二つの部を担当しております。営業統括部は、預金や貸出金、今では、国債・投信も推進している部署であります。顧客相談部は、営業推進には直接関連はしておらず、お客様の相談等をサポートする部署であります。今日は、平成22年度に取組んだ「地域・社会貢献活動」について顧客相談部の仕事の一部について話をしたいと思います。

皆様のところに資料を配布してありますので、ご覧下さい。

最初に、「古代鯉節の再現と志太郡衙(しだぐんが)」のイベントでございます。資料はP5とP6です。

かつて全国一の鯉節産地であった焼津市も、最近では鹿児島県枕崎市などに押され、その地位を明け渡しております。こうした状況を踏まえまして「鯉節のまち：やいづ」の復活を目指し、官民が一体となった活動を展開しております。当金庫も平成21年5月、信金中央金庫と提携し、「焼津鯉節水産加工業活性化支援」に向けて積極的な取組を行ってまいりました。

平成22年度、焼津鯉節の歴史や産業などを広く発信するとともに地位住民の皆様に理解を深めていただく為、「古代鯉節を再現する会」が発足されました。古代鯉節とは、鯉節のツールである、生の鯉を煮て乾燥させた「煮堅男(にかつお)」で、奈良時代に現在の藤枝市にあった古代役所である「志太郡衙(しだぐんが)」を經由して平城京に税として納められておりました。平成22年10月10日に同会が主催する、再現した古代鯉節を「志太郡衙」跡地で納める式典と試食するイベントが実施されました。また、10月24日には、奈良県「平城京遷都1300年祭」を執り行いました。

次に資料はP7となりますが、「海外事業展開セミナー」でございます。近年、経営成長を遂げてい

る中国、インド、ベトナムなどのアジア諸国へのビジネスチャンスを求めて事業展開をしようとする動きが活発化しております。当金庫では、海外への事業展開をテーマに中国市場の開拓事例を中心に、現地の生の情報を交えながらマーケットニーズについてセミナーを開催しました。当日は取引先22社25名の参加をいただきました。当金庫では、今後も新たな可能性を海外市場へ求めようとする中小企業の皆様に対しまして、積極的に支援していきたいと考えております。なお、23年度は、2回にわたりまして海外事業展開をテーマにしたセミナーの開催を計画しておりますので、ご関心を持たれるようでありましたら、是非、ご参加いただければ幸いです。

続きまして、資料P10をご覧ください。

リーマンショック以降、大学生の雇用環境は依然として厳しい状況が続いております。文部科学省では、就職支援強化が急務であると、平成22年度からの新規事業として「大学生の就業力育成支援事業」を立ち上げ、学生の卒業後の社会的・職業的自立に向けた取り組みを国として支援することを決定しました。平成22年度より、「実践力向上を重視した就業支援事業」を実践している静岡英和学院短期大学部から、地域の中小企業の事情に精通している金融機関として当金庫へ産学連携協定締結の依頼がありました。学生の就業力支援の必要性、マーケティング調査などを実施する大学側との協力体制を構築するメリット等を勘案しまして、平成23年2月15日に同大学と産学連携協定を締結しました。資料に記載しました内容は、同大学が現場での実習活動を強化していることから、商品開発や品質管理、流通過程などを学ぶ為に金庫の紹介で清涼飲料会社で工場見学を実施したものでございます。

続きましてP11をご覧ください。

当金庫では、災害時に事業を早期復旧する手段をまとめたBCP(事業継続計画)の策定に向けた支援を平成21年度より継続的に実施させていただいております。平成22年度は、焼津市・藤枝市ならびに商工会議所、商工会などの支援をいただき、行政機関や支援機関との連携を強化させることで、多方面から支援していくことを目指しました。このた

びの「東日本大震災」により、今後益々「BCP」への関心は高まり、計画を策定しようとする企業も増加していくものと考えております。

当金庫といたしましても、こういったニーズにお応えできるように努めてまいります。

続きまして資料P12をご覧ください。

平成22年度より、新たな試みとして「まるせい大爆笑寄席『文化講演会』」にご来場いただきました、お客さまに「チャリティ募金」の呼びかけを行いました。「まるせい大爆笑寄席」でお預かりしました募金は、本部役職員の募金と合わせて合計20万1千32円を静岡新聞社「愛の都市訪問」へ、そして「文化講演会」でお預かりしました募金4万7千869円は焼津市社会福祉協議会へ寄付金として贈呈しました。

続きましてP13をご覧ください。

このたびの「東日本大震災」では、東北地方をはじめ東日本を中心に深刻な被害を及ぼしました。被災されました方々、および関係者の皆様方には心からお見舞い申し上げる次第でございます。全国の信用金庫では、被害にあわれた信用金庫を始め被災地の方々を、業界を挙げて支援していく申し合わせを行い実施しております。当金庫におきましても、震災による経済的影響を受けられたお取引先に対して、災害対策救援融資や緊急相談窓口の設置、また、被災者の方々への救援や1日も早い復興を願い、当金庫ならびに関連会社の役職員から救援金を募ったり、生活用品等の支援物資を提供させていただくなど、いくつかの取組みをさせていただきました。詳細につきましては資料に記載させていただいたとおりでございます。

続きましてP14に掲載しております「金融経済教室」でございます。

当金庫では、「金融経済教育研究会」を発足し、平成19年7月より社会貢献活動の一環として毎年「金融経済教室」を実施しております。平成22年度は、8月に夏休みの福祉体験『楽しく学ぶ「ふくしのすずめ」』の一環として焼津市社会福祉協議会からの依頼を受け「ウェルシップやいづ」で小学校4年生から6年生の児童を対象に「お金とお金の価値を知ろう」をテーマに、お金に関わる知識や「黒

字家計」と「赤字家計」2つの家計モデルから、お金を大切に使うことの重要性を気づかせること、そして家族の一員として自分ができることに取組んでもらうよう児童たちに働きかけました。また、1月および2月には、21年度実施した静岡県立藤枝特別支援学校、静岡県立静岡北特別支援学校から再度、実施の依頼を受け、4月に就職を控えた高等部3年生を対象に「金融取引の始め方、お金の価値」をテーマに、預金口座の開設方法、印鑑やキャッシュカードの重要性、振り込め詐欺などの金融犯罪、貯蓄の重要性などを学んでいただきました。

続きましてP15からP18の資料をご覧ください。

当金庫では、地域密着型金融を念頭に置いた「創業や新事業」に関する支援、また、「課題解決型金融」の実践に向けた取り組みを強化させる為、平成20年4月に中小企業診断士で構成する「融資サポート課」を設置させ、営業店との連携強化を図り、設備投資計画や公的支援・助成制度の申請書類の作成など、様々なご相談に応じております。特に、新商品開発や、新事業への取組を静岡県が承認する「経営革新計画」への取組に力を入れております。資料には平成23年2月末時点での24件の承認となっておりますが、平成23年3月末では33件の承認を受けまして、当金庫営業エリア内における当金庫の支援先割合は20%の実績となっております。

続きましてP19からP20をご覧ください。  
当金庫のお取引先企業の皆様、長引く景気低迷に打ち勝っていくために、企業の経営改善に向けた取り組みを強化するため、平成20年4月に「企業支援課」を設置し、様々な経営改善支援を行っております。平成22年度は、リレーションシップバンキングの機能強化をより一層推し進めていく為に「経営改善計画の策定支援」をはじめ、経営改善に関するサポート「静岡県中小企業再生支援協議会」や「しずおか産業創造機構」といった外部支援機構を活用した支援などに力を入れて取組んでまいりました。特に経営改善計画の策定におきましては、前年度対比20件増加の54件といった実績となりました。

最後に、「若手社員研修会」について説明いたします。資料はP22となります。

当金庫取引先の若手社員を対象に実施している「若手社員研修会」を6月16日・17日の1泊2日に掛けて「航空自衛隊静浜基地」で実施しました。お取引先の若手社員は会社単位では、人数が少ないことから、若手社員研修が十分にできないといったご意見をいただき、当金庫で取りまとめ、主催しているものでございます。

平成22年度で33回目を迎えました。平成22年度は13社より50名の若手社員が参加しました。研修では、自衛隊の基礎動作である整列・集団行動・敬礼などの基本訓練から社会人としてのマナー講座や読み易い字の書き方セミナーなどを実施しております。「若手社員研修」を通じて社会の規律・団体行動の大切さを学び、また、地元企業で働く同世代の人との交流を図りました。

以上が、私どもが平成22年度に取組んで参りました、地域・社会貢献活動の主だったものを説明させていただきます。

## 冠 講 座

第12回(7月19日)

岐路に立たされる物  
流子会社  
経営の難しさを乗り  
切る

酒向 謙次君



(担当/小泉君)